

# 寺社Now

www.jisya-now.com

寺社の“いま”を伝える情報誌

vol.13

巻頭特集

MICE 誘致拡大に向けた  
社寺の取り組み

特別対談企画

地域ブランドの創生～香川県～

香川県知事

四国八十八ヶ所霊場会会長  
医王山 多宝院 甲山寺住職

浜田 恵造 × 大林 教善

インタビュー

河内國一之宮 枚岡神社宮司

中東 弘



マンション



商業施設



賃貸住宅  
「シャームゾン」



# 積水ハウスの 土地活用

オフィス



高齢者向け  
住宅



クリニック



## 土地を活かす。地域が活きる。

土地活用とは、土地の価値を地域に活かすこと。積水ハウスは、住宅のリーディングカンパニーとして培ってきた総合力で土地の可能性を引き出してきました。入居者の多様なニーズに対応する賃貸住宅「シャームゾン」や高級感あふれる中高層マンション、時代が求める高齢者向け住宅など、地域貢献につながる土地活用を積水ハウスがご提案します。



積水ハウス株式会社 大阪特建支店

〒531-0076 大阪市北区大淀中1-1-93 梅田スカイビルガーデンシックス4F



特建くん  
©積水ハウス2005

土地活用に関するご質問やご相談についてもお気軽にどうぞ。

0120-131-470

大阪特建支店

検索

資料をご希望の方は、フリーダイヤルでご請求ください。  
ホームページからもお申し込みいただけます。



積水ハウスの賃貸住宅  
「シャームゾン」総合カタログ



積水ハウス大阪特建支店 実例集  
「Best Solutions」

巻頭特集

02 MICE 誘致拡大に向けた  
社寺の取り組み

08 特別対談企画

地域ブランドの創生～香川県～

香川県知事 浜田 恵造 × 四国八十八ヶ所霊場会会長 大林 教善  
医王山 多宝院 甲山寺住職

14 インタビュー

河内國一之宮 枚岡神社宮司

中東 弘

12

トレンド Now

新しい禅の世界を体験できる  
壮大なアートパビリオン「洗庭」が誕生

13

行政・観光レポート

“動く漫画”で八溝山をPR  
大田原市が全国初の取り組みを実施

17

職人技

東京 株式会社イサオ商会  
江戸熊手職人 中村屋

18

うちのお宝

月山寺 中将姫三尊種子刺繍曼荼羅  
常陸國總社宮 太田道灌所用漆皮車配

20

集う、育む 体験レポート

浅草神社  
『家庭の中の小さな神社 神棚づくり教室』

21

活星人

イラストレーター・文筆家 田中 ひろみ

22

野田博明 風まかせ 13

桃ちゃん！「話せばわかる」

24

和空 presents 宿坊運営ノート

戸隠神社 宿坊 旧延命院 お宿諏訪

25

寺社旅研究家 堀内克彦 宿坊研究会レポート 11  
東京都心部に宿坊ができれば、大きな宣伝  
効果を生む

26

四季巡り 華景色④

談山神社の白木蓮





# マ イ ス MICE 誘致拡大に向けた 社寺の取り組み

“M：ミーティング”、“I：インセンティブ”、“C：コンベンション”、“E：イベント・エキシビション”の頭文字をとった『MICE』。

国際会議の開催や企業の報奨旅行などの総称で、これら呼び込むことは、都市の知名度向上や高い経済波及効果につながる事が期待される。これら国際会議などの開催に際しレセプションやイベントの会場として、社寺が今注目を集めている。MICEを巡る最新の動向をご紹介します。





**外国人旅行者の増加に伴い  
重要性が増すMICE**

MICEの開催は、地域の知名度を向上させること、参加者の滞在日数が長く支出が多いこと、経済効果があることから、観光庁ではMICE誘致・開催を積極的に推進している。

さらに、国際会議や企業ミーティングなどのレセプションやイベントを「歴史的建造物」「神社仏閣」「博物館・美術館」などで行うことで、日本の文化や地域ならではの魅力を発信できることから、観光庁でもこれらの場所をユニークベニュー(＝特別な場所)として、積極的な利用を推進している(表1)。

実際、2015(平成27)年には「国際専門家会合レセプション」を仙台市の遺跡博物館「地底の森ミュージアム」で開催。「国際イノベーション会議『Hack Osaka 2015』前夜祭」を歴史的建造物として国の登録有形文化財に指定されている、大阪市の「山本能楽堂」で行うなどの例がある。

特に日本文化の発信を考えるうえで、その効果はかなり期待できるのが「神社仏閣」だ。観光庁は、2016(平成

28)年度に新たな事業として「MICE誘致拡大に向けたユニークベニュー活用推進事業」を公募。ユニークベニューで開催される会議や講演会などの開催を支援している。今年度2回の選定委員会が開かれ左の9件のイベントへの支援が決定した(表2)。

この中には神社仏閣も複数選ばれているが、その中の「IHRA国際フォーラム」\*1の開催地

であり、昨年10月文部科学省が主催する「スポーツ・文化・ワールドフォーラム」の分科会「ワールドアワード受賞者との特別ワークショップ」が開催された妙心寺退蔵院の松山大耕副住職と、主催者の文部科学省スポーツ・文化・ワールドフォーラム準備室藤沢久美リリーダーにお話を伺うことができた。

<表2>「MICE誘致拡大に向けたユニークベニュー活用推進事業」

- 5th International Congress on Advanced Applied Informatics 桜の馬場城彩苑(熊本県熊本市)
- ICIA2016 & ICSS2016 栗林公園商工奨励館(香川県高松市)
- 第77回応用物理学学会秋季学術講演会 ピアBandai(新潟県新潟市)
- 国際メトロポリス会議2016愛知・名古屋 熱田神宮(愛知県名古屋市)
- 第22回アジア南太平洋設計自動化会議2017 千葉市美術館(千葉県千葉市)
- IHRA国際フォーラム 妙心寺退蔵院(京都府京都市)
- 第40回国際外科学会世界総会 元離宮二条城(京都市中京区)
- BioJapan2016 横浜美術館(神奈川県横浜市)
- International Conference on Rheology 2016 東映京都スタジオ(京都府京都市)

\*1 IHRA:一般社団法人国際高速鉄道協会 (INTERNATIONAL HIGH-SPEED RAIL ASSOCIATION)。

IHRAは、高速鉄道建設計画を検討する国に対し、Crash Avoidance(衝突回避)の原則を踏まえ、各地域の実情に適切につつ、安全な高速鉄道システムを目指す国々と情報や知見を共有するなど、国際的な協力を推進し、高速鉄道の発展に寄与することを目的とした活動を行っている。※同協会HPより抜粋

**【北海道】**

●野外博物館 北海道開拓の村(博物館、美術館) ●有珠山ロープウェイ山頂洞爺湖展望台、山麓屋外デッキその他 ●モエレ沼公園(公園) ●札幌芸術の森(その他)

**【宮城県】**

●仙台市博物館(博物館・美術館) ●旧伊達邸 鐘景閣(歴史的建造物、庭園) ●宗教学法人 圓通院(神社仏閣) ●丸文松島汽船株式会社(船舶)

**【新潟県】**

●新潟市旧齋藤家別邸(歴史的建造物、庭園) ●北前船の時代館 新潟市文化財 旧小澤家住宅(歴史的建造物) ●ほととぎすカーブドッチ(歴史的建造物) ●一般財団法人 北方文化博物館(博物館・美術館) ●五十嵐邸ガーデン(歴史的建造物、庭園)

**【東京都】**

●東京国立博物館(博物館・美術館) ●国立科学博物館付属自然教育園(博物館・美術館) ●日本科学未来館(博物館・美術館) ●関口美術館(博物館・美術館) ●スパイラル(博物館・美術館) ●印刷博物館(博物館・美術館) ●東京都現代美術館(博物館・美術館) ●出光美術館(博物館・美術館) ●東京都美術館(博物館・美術館) ●公益財団法人 東洋文庫ミュージアム(博物館・美術館) ●ホテル椿山荘東京(庭園)

**【神奈川県】**

●横浜能楽堂(能楽堂) ●Ori Yokohama(博物館・美術館) ●三菱みなとみらい技術館(博物館・美術館) ●三深園 鶴翔閣(歴史的建造物、庭園) ●横浜美術館(博物館・美術館)

**【愛知県】**

●名古屋城(歴史的建造物) ●トヨタ産業技術記念館(博物館・美術館、歴史的建造物) ●リニア 鉄道館(博物館・美術館) ●ノリタケの森(歴史的建造物、公園) ●公益財団法人 徳川黎明会 徳川美術館(博物館・美術館)

**【大阪府】**

●一般社団法人 大阪倶楽部(歴史的建造物) ●公益財団法人 山本能楽堂(歴史的建造物) ●旧桜宮公会堂(歴史的建造物) ●大阪中央公会堂(歴史的建造物)

**【香川県】**

●栗林公園商工奨励館(庭園) ●史跡高松城跡 玉藻公園(歴史的建造物)

**【広島県】**

●広島県縮景園(庭園) ●公益財団法人 ひろしま美術館(博物館・美術館)

**【福岡県】**

●九州国立博物館(博物館・美術館) ●大濠公園能楽堂(能楽堂) ●旧蔵内邸(歴史的建造物、庭園) ●嘉穂劇場(歴史的建造物) ●旧三井港倶楽部(歴史的建造物) ●旧門司三井倶楽部(歴史的建造物) ●三宜楼 歴史的建造物 ●小倉城(歴史的建造物) ●西日本工業倶楽部会館(歴史的建造物)

**【佐賀県】**

●佐賀県立名護屋城博物館(博物館・美術館) ●佐賀県立博物館・美術館(博物館・美術館)

**【大分県】**

●大分スポーツ公園総合競技場(スタジアム)

**【宮崎県】**

●宮崎県庁・前庭(その他) ●フローランテ宮崎(公園)

**【鹿児島県】**

●名勝仙巖園尚古集成館(歴史的建造物、庭園)

**【沖縄県】**

●ガンガラーの谷 ケイブカフェ 鍾乳洞 古代遺跡 ●東南植物楽園(植物園)

<表1>ユニークベニュー施設リスト(一部抜粋)



## 社寺だからこそ叶う日本文化の発信と 「心のお土産」となる仕掛けづくり

### ユニークベニュー会場として 社寺を推進すること共感

東京大学大学院を卒業後、積極的に日本文化の発信を行い、2009（平成21）年には「政府観光庁Visit Japan大使」、2011（平成23）年には「京都観光おもてなし大使」に任命された臨済宗大本山妙心寺退蔵院 松山副住職。さらに同年、日本の禅宗を代表し、ヴァチカンにてローマ教皇に謁見。2014（平成26）年には「世界経済フォーラム（ダボス会議）」にも出席するなど、宗教者という垣根を越えて世界的に活動している。また、日本の仏教や文化を海外に向けて発信してきた松山副住職。日本文化発信において寺院が果たせる役割は多岐に語る。「日本には非常にユニークな文化があり、その発信において神社仏閣が果たせる役割は大きいと思っています」

それゆえ、観光庁がMICEの誘致、そして神社仏閣などをユニークベニューの会場として推進していることについて「私自身も海外で講演する際、例えばイタリアではローマ時代に建てられた教会や大使公邸でさせていたことがありました。これは他ではできない体験です」と話す。

昨年10月、退蔵院で開催された「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」がクリスタルアワード受賞者との特別ワークショップでは、世界経済フォーラム\*2が選んだ国際社会の文化交流と世界平和に貢献した芸術家や文化人に授与する賞、クリスタルアワードの受賞者、アナント・シン（映画監督／プロデューサー）、アンジェリーク・キジョー（音楽家）、タン・スウィーヒャン（画家／詩人／思想家／作家）の3名による講演のほか、タン・スウィーヒャンさんによるパフォーマンスが行われた。その

会場として退蔵院が選ばれた理由を、主催者の文部科学省スポーツ・文化・ワールド・フォーラム準備室リーダーの藤沢久美さんは、「世界的著名人である受賞者が素敵だと感じ、かつリラックスできる会場が必要でした。特にタン・スウィーヒャンさんは、過去に妙心寺の高僧と交流された経験をお持ちだったのも理由の一つです」と語る。

### 食事を提供でき広い本堂がある 寺院は設備が整っている

要人対応の経験豊富な松山副住職は当時の様子を次のように振り返る。「そういった会場を社寺が担うには、それなりの心がけが必要だと考えています。単なる「場所貸し」ではだめで、何かしら「心のお土産」を持って帰ってもらえるような仕掛けをしなければいけません。通訳を介さず私が直接話をするなり、何か文化体験してもらうなり、仏教や日本の文化の香りを感じてもらおう。そのワークショップにおいても、日本庭園を眺めながらの季節の和菓子とお茶を楽しんでいただきました」

ただ、多くの寺院では、海外から参加者を受け入れる体制

\*2 世界経済フォーラム：グローバル・シチズンシップの精神に則り、パブリック・プライベート両セクターの協力を通じて、世界情勢の改善に取り組む国際機関。  
※同フォーラム日本事務所のHPより抜粋



(左)クリスタルアワード受賞者との特別ワークショップの様子。写真奥より受賞者のタン・スウィーヒャン、アンジェリーク・キジョー、アナント・シン、そして松山大耕副住職@WFSC (右上)クリスタルアワード受賞者であるアナント・シンさんのスピーチの様子@WFSC (右下)タン・スウィーヒャンさんによるパフォーマンス@WFSC





妙心寺 退蔵院 副住職 松山大耕さん

や設備に不安を感じることも多い。それについて松山副住職は「寺院は、法事などの際に訪れる方に食事を出すことがありますが、皆さんにお食事を提供でき、広い本堂がある。つまり、すでに会議やフォーラムなどを開催する設備が整っているのです」と寺院での受け入れ態勢に不安は少ないと語っている。

表示よりイラストで示す方がよいと思います」  
**今、国際会議に求められる精神性をかもし出す会場演出**  
昨年10月、退蔵院が開催地である「IHRA 国際フォーラム」が「MICEの誘致拡大に向けたユニークベニュー活用促進事業」として観光庁の支援を受けることに決まった。同フォーラムの主催者も、退蔵院での開催に特別な意味を感じているようだ。それについて松山副住職は次のように語ってくれた。「この場所は『日本の技術というのを見えないところを大事にして』ということをアピールする



ワークショップの会場となった、退蔵院の方丈

場として最適なのです。本堂の建具や襖は400年経っているのですが、この年月に耐えるだけの技術によって作られています。日本の鉄道の技術力をアピールするには、もってこいの場所だと思っただけなのです」  
さらに、海外旅行者の新たなニーズにおいても神社仏閣が果たす役割は大きいようだ。松山副住職によれば「京都観光は、単なる名所めぐりから少人数での『体験』を求める形、つまり『seeing』から『doing』になってきました。そして最近、旅のなかに精神性を求める『being』になってきています。幸せとは何か、なぜ自分は仕事をしているのか：家に帰ってきてからも

生き方の指針となるようなものを求める方が増えてきています。そのニーズに対応できるのは、まさに神社仏閣だと思います」  
今、国際会議の会場にも、このような精神性が求められているのに違いない。

**主催側・文部科学省が考える社寺におけるユニークベニューの意義**

一方、「クリスタルアワード受賞者との特別ワークショップ」を主催した文部科学省のスポーツ・文化・ワールド・フォーラム準備室リーダーの藤沢久美さんは、ワークショップが成功裏に開催できた要因について次のように語る。「退蔵院の会場としての魅力が非常に高く、日常と非日常を併せ持つ歴史的な空間に身を置くことで、出演者・参加者に自然と一体感が生まれました。また、会場そのものに個性が備わっているので、敢えて作り込んだ演出を用意する必要もありませんでした」

**参加者との一体感を自然と生み出す歴史的空間**

参加者からも好評だったよう

で、「登壇者からもここでの基調講演やパフォーマンスは大変印象深かったとのご意見をいただいております」と藤沢リーダー。さらに今後、このような国際的なイベントや会議を、神社仏閣などを活用して開催することについて藤沢リーダーは、「今回のワークショップは、受賞者の来日や松山副住職のお力添えなど、さまざまなご縁が重なった実現でした。今後もこうした機会がありましたら、お寺などでの開催を検討したいと思っています。イベントや会議のご相談をしたくなった際に、ご協力いただけるお寺や神社に関する連絡先や会場の諸情報などの一覧などがあると検討しやすいかと思えます」と語ってくれた。



@WFSC



## 観光庁が取り組む社寺における ユニークベニユーの開発・利用促進の意義

### 専門家の視点で MICEを開催する 意義を追及

MICEの誘致・開催には当該国・都市地域の発展、成長に寄与する大きな意義があり、国際的な誘致競争が激化している。観光庁では現在、MICE誘致に関してさまざまな取り組みを行っている。MICE誘致の必要性について、観光庁国際観光課課長でMICE推進室の室長を兼務する田中由紀課長は「MICEのEにあたる展示会やイベントの部分は誘致というよりも自分たちで開催して人を集めていくものになります。M（ミーティング）、I（報奨・研修旅行）、C（国際会議）の部分は誘致活動をしないといけない。そのためのいろいろな支援を行っているのがMICE推進室です」と話す。MICE誘致には専門のノウハウが必要

であり、経済波及効果など有用性を関係者に示して巻き込んでいくことも重要となるため情報発信と収集に取り組んでいく。地域の誘致力強化のために強化都市の指定も行っているが、「観光誘致と違って、ターゲット層が学会の先生や研究者になるので、観光情報だけ提供しているという意味がありません。その都市で開催することの意義は何か、どのようにプレゼンテーションすればいいのかを専門家の目を通して考えています」と、MICEならではの目線で戦略が必要と語った。

**ユニークベニユーにおいて高まる社寺への期待**  
現在、ユニークベニユー施設リストとして約100箇所近くが挙げられている（P3表1）。その選定のポイントは「どこでも

ユニークベニユーにできるわけではなく、施設管理の方のご理解が必要。実際にレセプションやデイナーで使うことができる施設を中心に選定しています。数は少ないですが、まだユニークベニユーとして開放していないところでも、調整することでリストに入れてあるところもあります」としている。社寺も選定されているが、その数は決して多く無い。「こちらはすでにユニークベニユーとして実績がある社寺ということで選定しています。すぐにでも利用したい方に使っていただくためのリストなので、使いやすい状態にあるところでないことと選定は難しい」というのが理由だ。社寺の選定数が少ないことについては「そもそも社寺関係の方がユニークベニユーの概念についてご存知の方が少ないこともあると思います。施設側の方もハードルが高いと考えていらっしゃることもあってしょうね」と考察した。

社寺に限らず、「文化財などがある施設ですと、傷がつくのではないかなどの心配や一般の方に向けては貸し出せないというご意見もある」。今年度ではそのような施設がどのような工夫や調整を経てユニークベニユー



観光庁国際観光課課長兼MICE推進室室長  
田中由紀さん

### 特別な場所で実施される 日本らしいプログラムに価値

として活用できるようなったかも知りまとめ、関係者に周知できるようにしていきたいという。  
選定リストでの数は少ないが、観光目的でない方にユニークベニユーを利用してもらうことで日本の良さを体感してもらうという意味において社寺は非常に魅力的な施設と考えられている。「お寺や神社はまさしく日本ならではの場所なので、日本を体感、体験していただくにはもってこい。日本の文化を感じる場としての需要に社寺の方々に関心を持っていただいてご検討していただきたい」と期待を寄せた。

2016（平成28）年度からは新たな取り組みとして「MICE誘致に向けたユニークベニユー活用促進事業」が進められている。これまで観光庁ではユニークベニユーを活用させたいという取り組みは行ってきたが、まだまだ知られていないという実態があった。そこでこの取り組みを継続強化させ、ユニークベニユーの活用実績を増やしていきたいという狙いだ。ユニークベニユーを活用したレセプションや会議を開催する場合に費用の一部が支





ユニークベニュー施設リストにあがる、宮城県の圓通院。日本庭園は松島随一と言われる



2016年10月に開催された「国際メトロポリス会議 愛知・名古屋」では、熱田神宮の熱田神宮会館でフェアウェル・ディナーが催された

援され、2回の公募で計9件が決定した。「通常はイベントなどが行われない特別な場所であることをまず重視しています。また、そこでできる特別なプログラムに工夫があるかどうかもポイントになります」と決定のポイントとは、例えば寺院であれば、住職による英語での講話が実施できる、神社の境内でお神酒や食事などを提供できる、などだ。

特別な場所で、日本らしさを体感できるかどうかは重要となる。MICE誘致については観光庁以外でも、各自治体やコンベンションビューローも普及・啓発に取り組んでいる。「ユニークベニューの概念を広め、皆さんに積極的に取り組んでいただけるような仕組みにしていきたい」と、今後の訪日客増加の目標に向け、観光庁として今後も精力的に取り組んでいく方針だ。

## ユニークベニューを 地域活性のきっかけに

国際会議やレセプションと聞くと大規模なものを想定してしまいが、MICEの規模もさまざまで数人程度のものから数千規模のものまでいろいろなパターンがある。そもそも多くの社寺で独自の会館やホールを持ち、結婚式のほかにさまざまな会議などを開催しているケ-

スは多い。たとえば神戸・生田神社では「生田神社会館」で学会の会議が開催されたり、製菓メーカーの講演会も年間100回ほど開かれているという。また奈良・東大寺は図書館、ミュージアム、収蔵庫、寺史研究所、華厳学研究所、金鐘会館とショップやカフェを備えた複合施設「東大寺総合文化センター」において、東大寺の歴史や美術を紹介する企画展や「東大寺学講座」など多彩な催しを行ったり、国際会議の会場としても利用されている。このように多くの社寺において、会議やレセプションを受け入れるノウハウは有しているといえる。さらにユニークベニューへ取り組むことは、社寺の既存の会館などを利用することもできるので、これまでとは違った層の人々を社寺に招き入れる機会の創出となるのは間違いない。

単に日本らしい風情を味わえるだけでなく、日本の技術力の根幹を示すことができ、さらに来訪者の心にも語り掛けることができる。ユニークベニューとしての神社仏閣への期待はますます高まりそうだ。加えて、社寺周辺の経済波及効果から、地域貢献にもつながる可能性もある。

ユニークベニューの支援以外にも、これまで本誌では文化財保全や外国人観光客誘致に関するさまざまな補助事業を紹介してきた。それらを有効的に活用し、社会や地域へのより積極的なコミットメントを検討してみたいかがだろうか。

### <取材協力>

臨濟宗大本山妙心寺退蔵院 <http://www.taizoin.com/>

文部科学省スポーツ・文化・ワールド・フォーラム準備室

「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」のホームページ:

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/worldforumonsportandculture/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/worldforumonsportandculture/index.htm)

観光庁 国際観光課MICE推進室

「MICEの開催・誘致の推進」のホームページ:

<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kokusai/mice.html>

特別対談企画

## 地域ブランドの創生～香川県～

香川県知事

四国八十八ヶ所霊場会会長  
医王山 多宝院 甲山寺住職

は ま だ け い ぞ う  
浜田 恵造

お お ば や し き ょ う ぜん  
大林 教善



地方のトップである知事とその地域にゆかりある寺社の方々をお招きし、観光、地域と寺社の活性化について語り合う特別対談企画。

今回、香川県知事・浜田恵造氏と四国八十八ヶ所霊場会会長・いおうざん たほういん こうやまじ 医王山 多宝院 甲山寺 大林教善住職との対談が実現しました。

昨年、「四国遍路（逆打ち）」、アートイベント「瀬戸内国際芸術祭」の開催が話題を呼び、観光客数が大幅に増加した香川県。このような観光誘致の成功要因や地域ブランドの創生、寺社と地域との連携について、さまざまなテーマでお話しを伺いました。





左：甲山寺本堂  
右：昨年8月8日有楽町駅前での世界遺産登録推進キャンペーンの様子

## 日本一小さな県・香川県の躍進、そして三つの取り組み

**編集部** 現在、香川県では「うどん県」、「四国遍路(逆打ち)」、「アート県」などをテーマに観光客の誘致、県としてのブランディングの側面においても全国はもちろん、海外からも注目を浴びています。これらの取り組みにおける成功要因とは何かお聞かせください。

**浜田県知事** 昨年(2016年)はご指摘の面で大きな取り組みがあった年です。今や香川県を代表する名物「讃岐うどん」。これは全国区でも知られており、それを活用して、香川県の知名度が上がりました。そして、3年に一度開催される「瀬戸内国際芸術祭」、4年に一度の四国遍路「逆打ち」、昨年はこの二つのイベントが重なる12年に一度の貴重な年でした。片や瀬戸内海と多島美と現代アート、片や四国八十八ヶ所の四国に根ざした庶民信仰の伝統、この二つがコラボレーションしたように思います。いずれも、香川県ならではの地域資源をうまく活用できたことが、大きな成功要因となったのではないかと思います。

**編集部** 昨年は4年に一度の四国遍路「逆打ち」の年でもあったことから、巡拝者の数も増加したと聞いております。香川県、四国全体の取り組みにより霊場会への影響、寺社において観光客の増加

など感じられたことがあれば、お聞かせください。

**大林住職** そうですね。昨年は4年に一度の閏年、逆打ちの年ということもあり、八十八ヶ所霊場の八十八番札所から三番札所へと反対にお遍路さんが巡拝される年でした。さらに昨年は「瀬戸内国際芸術祭」の開催年でしたので、例年より多くの訪日外国人が札所を訪れていると感じました。また、個人で巡拝される方が非常に多かったです。特徴だったと思います。芸術祭と共に若い方が多く香川県を訪れ、いつもと違った印象を受けましたね。これも香川県をはじめ、さまざまなメディアなどにも取り上げられ、PR効果が大きいであったと感じています。

**編集部** 若い方や個人での巡拝者も増えているんですね。メディアなどで訪日外国人が巡拝されている姿を目にすることがありますが、外国人の巡拝に関してはどう感じられますか？

**大林住職** 先日フランスから来られた方がいました。みなさん「四国はいいですね」とおっしゃいます。私は霊場巡拝と祈りに対するお気持ちに国境の差はないと感じております。巡拝をされることで、海外の方にさらに日本の文化を身近に感じていただけると嬉しいですね。

**編集部** 国内外問わず、誰もが訪れて

瀬戸内国際芸術祭の様子



リン・シュンロン(林舜龍)「国境を越えて・潮」  
Photo:Yasushi Ichikawa



「瀬戸内アジア村 - タイファクトリーマーケット」  
Photo:Shintaro Miyawaki

楽しめるのが香川県の良い所なのですね。では、香川県をさらに活性化させるための課題、また新たな施策などはお考えでしょうか。

**浜田県知事** そうですね。観光客の方に「うどん県＝香川県」というイメージは、定着しつつあります。しかしながら、その他のイメージは讃岐うどんに比べ、まだまだ認知度が低いと感じています。現在の香川県のキャッチコピーである「うどん県。それだけじゃない香川県」という言葉が示す通り、県内の魅力は他にもたくさんあります。また、これらの地域全体のブランドイメージを高める施策を進める中で、人口問題への対応などにも繋がっていききたいと思えます。移住定住者やUターンの若い方など、香川県に住みたいと感じていただけるよう魅力をアピールしており、そのためにも、まずは日本一小さな県・香川県に足を運んでいただき、その良さを体感していただきたいと考えています。

**編集部** なるほど。確かに県外者からすれば、讃岐うどんのイメージがかなり強いのは確かですね。具体的にどのような点をPRして行きたいとお考えでしょうか？

**浜田県知事** うどん以外に何があるのか、という課題の中で、力を入れているのがアート、「瀬戸内国際芸術祭」に繋がるわけです。開催期間中だけでなく、建築

や美術館で常時展示されている作品なども世界から注目されています。県内には美術館が数多くあり、美術誌などでも「日本の美術館」という特集の中で香川県の美術館を何度か取り上げていただいています。例えば直島の「地中美術館」や丸亀市の「丸亀市猪熊弦一郎現代美術館」などで、小さな町にもこれだけ多くのアートが身近にある県という点をさらにアピールしていきたいですね。また、訪れた方がインターネットやSNSなどで香川県のアートのシーンを発信していただくことで、本県の知名度、印象度の二層の向上を図っていければと思います。

### 世界遺産登録という大きな課題 寺社と行政の連携が要に

**編集部** 最近では、四国遍路の世界遺産登録に向けた動きも大きな話題になりました。昨年8月には文化庁に新たな提案書を提出されたとお聞きしましたが。

**浜田県知事** はい。世界遺産登録に関する新たな提案書を作成し、四国四県の知事が揃い、文化庁長官にお渡ししました。また、世界遺産「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」が所在するスペイン・ガリシア州と四国四県が世界遺産登録に向け、協力協定を締結しました。さらに、国内第9号の日本遺産にも認定され、全国でフルートしかない広域周遊観光ルートに選定されたことなどを活用し、四国遍路

の魅力を増強的に国内外に発信したいと考えています。

今後は文化庁から示された、世界遺産への登録に向けた課題を二つ二つクリアし、これまで以上に四国四県が団結し、真摯に取り組んでいきます。第3回目の「瀬戸内国際芸術祭」が昨年に終了し、今後はこの結果を分析しつつ、一層の機運醸成を図り、一刻も早い四国遍路の世界遺産登録を目指し、推進していきたいと思っております。さらにはアートの一環として、寺社建築の素晴らしさを海外の方や国内の若い方にも興味を持っていただけたら嬉しいですね。

**編集部** 文化庁長官を訪問された際には四国八十八ヶ所霊場会会長として大林住職も同行されたとお聞きしました。四国遍路の世界遺産登録に向け、霊場会でも新たな取り組みなどがあればお聞かせください。

**大林住職** 四国八十八ヶ所霊場会も推進協議会の構成員として、この活動に協力すると共に、四国遍路が世界に誇る生きた文化遺産として、未来へ保存、継承されて行くことを悲願しております。さまざまな宗派がありますが、四国（八十八ヶ所）の霊場寺院が一つとなって活動できるように努力しております。一刻も早く暫定一覧表に記載され、世界遺産に登録できるようにと願っております。

## 「四国遍路の世界遺産登録に向けた活動が今後の最重要課題です」

### プロフィール 浜田 恵造

1952（昭和27）年1月10日、香川県観音寺市生まれ。東京大学法学部卒業。1975（昭和50）年4月 大蔵省入省。1986（昭和61）年6月 大蔵省主計局主査（農林水産担当）。1987（昭和62）年7月 大蔵省主計局主査（地方財政担当）。1990（平成2）年4月 山形県総務部長。1996（平成8）年8月 大蔵省理財局国債課長。2002（平成14）年7月 東海財務局長。2003（平成15）年7月 地方分権改革推進会議事務局次長。2007（平成19）年4月 東京税関長。2008（平成20）年7月 日本高速道路保有・債務返済機構理事。2010（平成22）年9月 香川県知事（1期目）。2014（平成26）年9月 香川県知事（2期目）。





# 「芸術祭の開催に伴い、若い方が四国遍路に興味を持つ良い機会となりました」

プロフィール 大林 教善

1945(昭和20)年11月11日生まれ。種智院大学卒業。1971(昭和46)年 甲山寺に晋山(しんざん)。以後、全青連副理事長、善通寺派庶務部長、善通寺執行等を歴任。2006(平成18)年から随心院流小野講傳所伝授阿闍梨となり随流一流伝授を成満。2008(平成20)年に御修法大行事を実施。2012(平成24)年に随心院寺務長、2013(平成25)年に御修法別当、四国霊場讃岐部会会長、保護司(法務大臣表彰)、善通寺市文化財保護審議委員会委員長。現在、四国霊場第74番札所甲山寺住職。

浜田県知事 ご住職がおっしゃられたように、四国が世界遺産登録を目指す目的は、四国が誇る文化遺産を未来へと保存していくこと、そして継承していくためであり、将来的にはこういった取り組みが地域の活性化へと繋がっていくものだと思います。

編集部 なるほど、四国遍路の世界遺産登録に向けた動きは四国四県の大きな課題となっているんですね。では、世界遺産登録に向けた活動は具体的にどのようなことを行っているのかお聞かせください。

浜田県知事 事務局を香川県に設立し、「世界遺産登録推進協議会」において構成資産でもある札所寺院や遍路道の学術調査、四国遍路の調査研究を進めています。また、歩き遍路のための受入体制の整備や世界遺産登録に向けた活動に関する普及啓発活動も行なっています。

編集部 香川県は霊場会や地域の方々などと密に連携されていることがよく分かりました。それでは、アート県として小さな美術館などが注目されているように、四国八十八ヶ所以外の香川県内の寺社の魅力を多くの方に知ってもらい、足を運んでもらいたいと思うのですが、そういった面における地域資源の活用施策、観光事業についてお聞かせください。

浜田県知事 香川県には「こんびらさ

ん」の愛称で親しまれている守り神である「金刀比羅宮」があります。1368段も続く階段を登り、参拝することで全国からも通年を通し、多くの観光客の方が訪れる観光地となっています。そこで以前より金刀比羅宮や琴平町のご協力のもと「金(ゴールド)」をモチーフとして、香川県の新たな魅力を発信する活動「ゴールドプロジェクト」を展開しています。参道にゴールドの案内状を設置し、観光案内所で金色のレンタサイクルや金色の杖を貸し出している他、ゴールドプロジェクト認定商品などの販売などを行っています。地域全体が積極的に活動に賛同してくれたことにより、新たな地域資源へと繋がっているように感じます。

香川県には善通寺周辺や高松市にも八栗寺など、伝統のある寺社が数多くあります。そういった文化資源を地域資源として掘り起こし、地域活性化へと繋げていく必要性があると感じています。また、県産品を活用した施策にも力を入れており、積極的な連携、誘客を図り、将来的に交流人口の増大に繋がっていければと思います。

大林住職 我々霊場会としまして、四国遍路の魅力をさまざまな機会をとらえて発信することの必要性を感じているところです。2023年には弘法大師1250年の誕生祭があります。宗派にとらわれず、歴史が受け継がれ、これから未来へと紡ぐためにも大きなイベントと

して、地元や行政、霊場が一体となり、積極的に地域のPRをしていきたいですね。そうすることで霊場会、寺社のみならず、四国全体の活性化にも寄与するものだと思います。

浜田県知事 そのためにもまずは世界遺産登録への目標を実現することですね。地域に溶け込んでいる、素晴らしい庶民信仰は文化的な価値があると思います。日本の観光の中心は神社仏閣。寺社などの連携をさらに拡充していきたい、日本が誇る文化、寺社の良さを発信し、これからの未来へと繋がっていきたいと思います。

——新たなテーマを掲げ、地域の活性化のため寺社と県の連携が円滑な関係の印象を受ける香川県。四国遍路の発展のため、「世界遺産登録」へ目標を掲げ、地域全体が一丸となって地域ブランドを広めたいという熱い思いが浜田県知事、大林住職の対談を通して伝わってきた。今後は民間企業とも連携した取り組みを積極的に行っていきたいと最後に語った浜田県知事。今後の香川県の新たな観光事業、地方創生への取り組みに注目したい。

## 新しい禅の世界を体験できる 壮大なアートパビリオン「洗庭」が誕生

広島県のなだらかな山間に佇む臨済宗建仁寺派の特例地寺院・天心山神勝寺に、昨年9月『神勝寺 禅と庭のミュージアム』がオープンした。広報担当の山下鮎美さんは「お寺の文化遺産を継承しつつ、歴史的な建造物やお茶室の移築・再現、庭造りを進めるうえで、ご縁のある白隠の禅画をとくに体験できる施設があれば」と、ミュージアム構想の経緯を語る。全体をミュージアムとして見立てた神勝寺の広大な敷地内には、建築家・藤森照信設計による寺務所、滋賀県の永源寺から移築再建された含空院、復元された千利休の茶室、臨済宗中興の祖といわれる禅僧・白隠の禅画や墨跡など常設展示する莊嚴堂など、歴史的にも興味深い建造物が多数点在。その中で注目を集めているのが、海外でも活躍する彫刻家・名和晃平が手掛けたアートパビリオン『洗庭』だ。

### “無”の境地へ導く舟をイメージした インスタレーション作品『洗庭』

『洗庭』の構想が生まれたきっかけについて山下さんは「さまざまなジャンルのクリエイターが集うプラットフォーム『SANDWICH』を主催する名和晃平さんと、その建築チームである李仁孝さん、古代裕さんに、既存の中国絵画のコレクションを見せる空間についてご相談をしました。その際に、建物内で作品を体験することができるアートパビリオンのご提案があり、『洗庭』の新設に至りました」と語る。伝統的なこけら葺きの技法による、全体が木材で柔らかく包み込まれた全長46メートルもの巨大な舟形の建造物『洗庭』は、荒ぶる海原に見立てた石の上に浮かぶように配置されている。その重厚な存在感、彫刻的な造形美に誰もが心奪われるだろう。物質感のある石の海を抜け、ゆるやかなスロープを上がり、小さな入り口から舟のなかへ入ると、建物内部の空間では、暗闇の中で波に反射する光を五感で感じるインスタレーションが体験でき、訪れた人を深い瞑想の世界へと誘う。

「現代美術のアプローチで禅を解釈し表現した『洗庭』とともに、禅画、建築、アート、庭の鑑賞を通して新しい禅を体験してほしい」と山下さん。今後はトークイベントも構想中とのこと。古典建築から現代建築まで時代を超えた禅に関わるアートが共存し、訪れた人が“見る、歩く、感じる、瞑想する”など、それぞれに禅の心を感じられる新しい形のミュージアムは、日本はもとより禅ブームが高まる海外でも話題を集めそうだ。

臨済宗建仁寺派 神勝寺 禅と庭のミュージアム  
〒720-0401  
広島県福山市沼隈町大字上山南91  
TEL：084-988-1111(寺務所)  
<http://shinshoji.com/>



『洗庭』の外観 ©SANDWICH inc



「莊嚴堂」に展示された白隠の作品『鼠大黒』 写真：堀出 恒夫



# 行政・観光リポート

行政・観光のトレンド情報をリポート

## “動く漫画”で八溝山をPR 大田原市が全国初の取り組みを実施

栃木県大田原市が文星芸術大学と連携し、八溝山をテーマに、マンガに音声や動きを加えた「モーションコミック」による市のPR動画を制作した。自治体がモーションコミックを使ってPR動画を制作するのは全国初の試みで、すでに動画投稿サイトYouTubeなどで公開され話題を集めている。

制作のきっかけについて、大田原市政策推進課の飯塚健次さんは「文星芸術大学の長島重夫地域連携センター長から大田原市長にモーションコミックの紹介があり、同大にPR動画の制作を依頼しました」と語る。大田原市は、八溝山を囲む近隣の3県7市町と「八溝山周辺地域定住自立圏」を形成しており、その圏域3県を跨ぐように標高1,022メートルを誇る壮大な八溝山がそびえ立つ。その八溝山をテーマにした理由については、「八溝山は空海が名付けたと言われる信仰の場でもあります。全国的な知名度は得られていません。しかし近年、清冽な水と豊富な自然に囲まれた八溝山をハイキングや自転車で登る愛好家が増加していることもあり、首都圏からの誘客促進に期待できる八溝山に焦点を当て、PR動画を制作するに至りました」と飯塚さんは話す。

### 八溝山の“何もない自然”の魅力を モーションコミックで表現

モーションコミックとは、マンガなどの絵をパソコンに取り込み音声や動きを付けた動画のこと。アニメーションと比べ費用や制作時間が3分の1程度に抑えられるメリットがある。とはいえ、今回PR動画の制作を手掛けた同大マンガ専攻の田中誠一教授は「八溝山が観光地ではなく“何もない自然の魅力を伝える”ことをテーマにしていたので、とにかく現場へ出向き、自分の足で歩いて八溝山の自然を体感しようと往復4時間かけ20回以上取材・調査へ訪れました」と人知れぬ苦労も話してくれた。「八溝山周辺の自然の美しさを絵で表現するため、色彩、光、磯上の山桜、川の流れの動きなど何度も試行錯誤を重ねて制作しました。動画で流れているバスや鐘の音などは、その場で録音した音を使っています」

### 行政、大学、寺社が連携し、 映像を通して地域の魅力を発信

タイトルを『天地の生粋』、サブタイトルを“なにもないけどいいところ八溝山”と題し完成したPR動画には、市の名所の一つとして臨済宗妙心寺派の名刹・雲巖寺が紹介され、住職の原老師も登場する。「雲巖寺へ足を運ばせていただいた際に、原老師が『八溝の自然の中で生きる話』を語ってくれました。その中の『天地の生粋』という言葉がとても印象的で、本モーションコミックのタイトルに使わせていただきました」と田中教授。

八溝山周辺地域定住自立圏内には、大田原市のみならず由緒ある寺社が数多く点在。飯塚さんは「これらの寺社を地域資源として捉え、その地域に暮らす住民、観光客双方に歴史や特性を強く認識してもらい、地域振興を実現したい」と、今回のモーションコミックによるPR動画を機に、当該地域のさらなる魅力発信を目指す。このモーションコミックは大田原市公式サイトでのYouTubeチャンネルなどで公開している。

大田原市公式サイト <http://www.city.ohawara.tochigi.jp/>

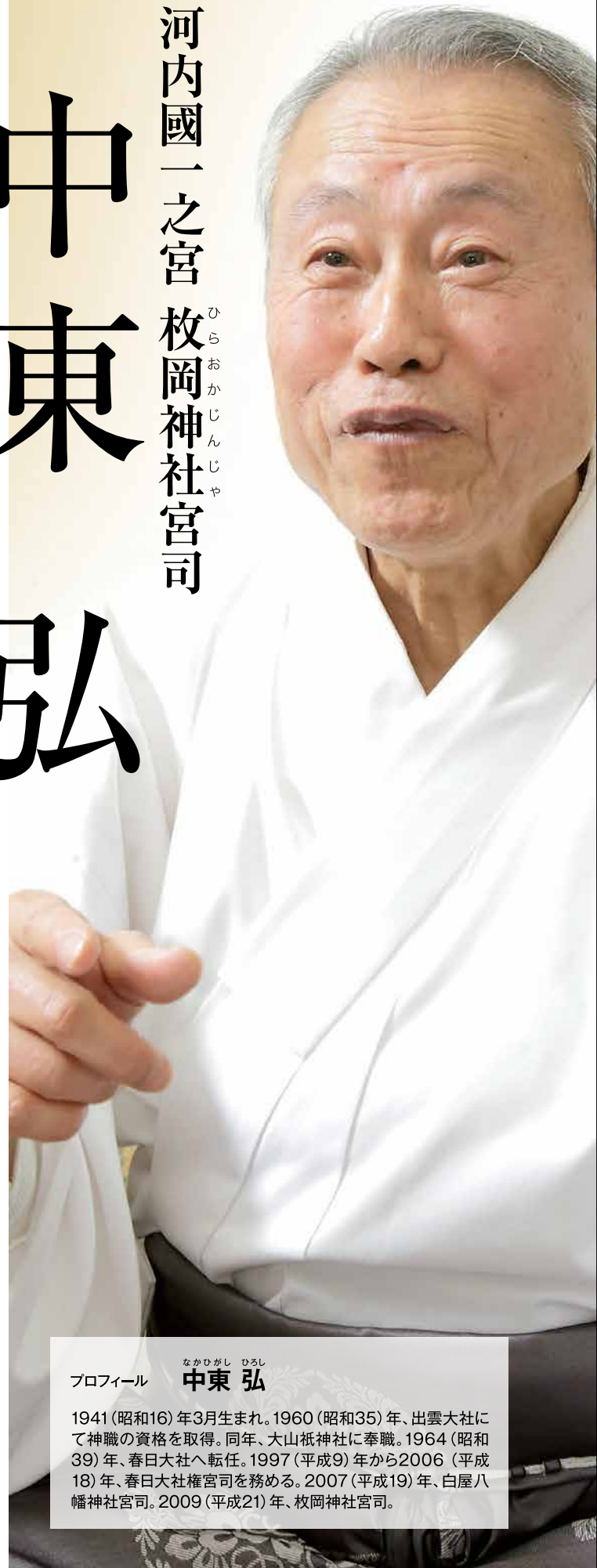


大田原市モーションコミック『天地の生粋』の1シーン ©大田原市

河内國一之宮 枚岡神社宮司

ひらおかじんじや

# 中東 弘



プロフィール なかがし ひろし 中東 弘

1941(昭和16)年3月生まれ。1960(昭和35)年、出雲大社にて神職の資格を取得。同年、大山祇神社に奉職。1964(昭和39)年、春日大社へ転任。1997(平成9)年から2006(平成18)年、春日大社権宮司を務める。2007(平成19)年、白屋八幡神社宮司。2009(平成21)年、枚岡神社宮司。

## インタビュー

河内國一之宮・枚岡神社は、神武天皇が即位される三年前に創祀された、大変格式高い神社の一つです。そんな枚岡神社では現在、伝統に新しい試みを融合させた参加型の神事を開催するなど、神道の心を積極的に発信されています。その取り組みの先頭に立つ中東宮司に、お話を聞きしました。

**古い文化と新しい文化を融合させた「お笑い神事」で感謝の心を教える**

**編集部** まずは枚岡神社の御由緒をお聞かせください。

**中東宮司** 神話によりますと、神武天皇(神倭伊波禮毘古命)は、日本の国を治める為、日本のほぼ中央である大和をめざされます。しかし、生駒の豪族であったナガスネヒコが阻止。そこで神武天皇は建国への願いを込め、天の岩戸を開いた天児屋根命をお祀りしたのです。これが枚岡神社

の創祀とされています。その後、熊野や吉野などをまわり、橿原に辿り着き建国されました。今年建国されて2677年。枚岡神社はその3年前にお祀りされているので、ご鎮座2680年になるとも古い神社です。

**編集部** 長い歴史のあるお社ですが、近年は神話に因んだ新しい神事に積極的に取り組まれています。

**中東宮司** 日本の文化は神話とながっています。たとえば、神社のお祭りでは神を立て、五色の布と、三種の神器を飾ります。当たり前の光景ですが、元を辿れば全て神話につなが

ります。素戔嗚尊の乱暴な振る舞いによりお隠れになった天照大御神にお出ましになっていただくために、お祭りが行われます。その際に飾ったものが神、五色、三種の神器なのです。それが現代に続いているということは、今も日本の国は神代の延長だということです。日本にはこうした神話の時代から大切に守られてきた古い文化があり、一方で新しい文化もある。神社においても、伝統神事や風習を残しながらも、時代時代の人々の心に合った魅力あるものを作らなければいけません。不易流行がなければ、神



# 日本の文化の礎は神話にあり。 神道の心を広く発信し、日本再生へ



御神木の柏楨(びやくしん)の前で

社といえども人々の心を捉えられず、滅んでしまいます。

**編集部** 「お笑い神事」はまさに古いものが新しく発展したものです。

**中東宮司** 神話の天の岩戸開きでは、天照大御神が二度とお隠れにならないように縄を張ります。これが注連縄しめなわの起源とされています。このシーンに因んで、枚岡神社では正月を迎える際、新しい注連縄しめなわをかける「注連縄掛神事しめなわかけしんじ」を伝統行事として行っており、その中で「あつはつは」と笑う「お笑い神事」がありました。これは、天照大御神を誘い出すために神々が踊りに合わせて大声で笑い続けたことを由来とするものです。私が枚岡神社に入った8年前は内輪だけで笑っていたのですが、それではもったいない、日本の文化を知る良い機会だと、一般の方にも参加していただくようになりました。近年は外国の方にも参加していただき、昨年は新しく「天の岩戸開き神事」(詳細は次頁参照)も行いました。

**編集部** 昨年は約3000人の方が20分間も笑い続けたそうですね。

笑い続けるコツがあるのですか？

**中東宮司** 感謝の気持ちを持つことです。不平不満があると笑い続けられません。道化を見て笑うのも違います。私は皆さんに、神話のお話をして、「生かされて今ここに居あわせていることがどれだけ有り難いか感謝しましょう」と伝えていきます。最初の5分はすごくしんどいのですが、だんだんと神気が体に満ちてきて、無心に笑っていると、心の岩戸が開かれるのです。そして、すべてが大調和し、気持ちが高揚して、終わる頃には「アンコール」という声もかかるんですよ。そもそも神話の世界では、「感謝」が当たり前にありました。植物を育てる土には埴安姫神はつやすひめのかみ、生命を育む水には罔象女神みづはのめのかみなど、我々を生かしてくれている目に見えない働きに神様の名前をつけて感謝してきたのです。しかし、現代は感謝の気持ちが希薄です。

**神道の心を伝える場を創出。  
美しい国、日本を守り、  
未来につなげるために**

**編集部** 感謝の気持ちが希薄な現代、それはどんな時代なのでしょうか？

**中東宮司** 目に見えないものを忘れ、目に見える「物」だけを追い求めてきました。物が手に入れば幸せになれる。そうした結果、地球的な規模で破壊が続き、自然が脅かされています。人々はストレスやうつで苦しんでいます。目に見えない自然の力や体の奥にある無限の能力を信じてきた

神道の心は、環境や心の元気を取り戻すには、番です。

**編集部** そついつた神道の心を伝えるために開催されている「巫女研修」や「子供ひらおか塾」、「禊研修」や「断食研修」などが大変盛況ですね。

**中東宮司** やつと皆さんも「このままではだめだと気づき始めたのではないだろうか。21世紀は女性の時代です。巫女研修では、日本の歴史や神話、お笑い神事の実践、礼儀作法、祝詞の奏上や瞑想など、日かけて日本の文化を学びます。国家の基本は家庭です。女性から、女性が学んだことを子供に伝え、日本の再生につなげてほしいと思っています。巫女研修は大変好評で、今では口コミで遠方から参加される方もいらっしゃいます。また、これまで参加してくれた女性の皆さんが神事の時には手伝いに来てくれ、非常に大きな力になっています。

「子供ひらおか塾」では、枚岡神社の森の中で子供たちに神話を教えています。近年は神棚や仏壇のない家庭で育つ子供たちがほとんどで、手を合わせる習慣がありません。そういつたことから感謝の気持ちが薄らいでいるのです。神道を通して、見えない世界の素晴らしさを知って、やはり日本の未来につなげてほしいと願っています。

**編集部** 最後に、若い世代の方々、特に神職の方々へのメッセージをお願いします。

**中東宮司** 私たちの祖先は、目に見えるものだけではなく、見えないものも感性で感じ取ってきました。この世は幽顕ゆうけん一如です。見える、見えないどちらの世界も学び、先人が築いた知恵の上に、新しく創意工夫をし、魅力をつかっていく。そうして、美しい日本の文化を子供たちに伝えてほしいと思います。21世紀は神道の時代でもあります。



かわちのくにいちのみや ひらおかじんしゃ  
**河内國一之宮 枚岡神社**  
〒579-8033 大阪府東大阪市出雲井町7番16号  
TEL.072-981-4177  
<http://www.hiraoka-jinja.org/>

# 神話の世界を再現「天の岩戸開き神事」を本邦初齋行



天の岩戸が開かれ、アマテラスオオミカミが登場。80名の巫女とともに「あけのうた」を披露した



「天の岩戸開き神事」のプロデュースを手掛けた中東弘宮司



午前10時の「注連縄掛神事」では、中東宮司の先導に合わせて三度笑った後、3,000人余の老若男女とともに、20分間笑い続け、境内は笑いで満ち溢れた

神武天皇の侍臣で中臣氏の祖の天種子命が、天皇の命で祖神の天兒屋根命をお祀りされてから、ご鎮座2680年を数える枚岡神社。同社の代名詞ともいえるのが、年末に開かれる「お笑い神事」。天岩戸に隠れたアマテラス大神を誘い出すために、主祭神・天兒屋根命の祝詞とともに、神々が大声で笑い続けたという「天岩戸の神話」にちなんで社中で行われていた「注連縄掛神事」を般参加にまで拡大したもの。

その神事が開かれた同じ日(昨年12月23日)の夕刻、中東弘宮司のプロデュースによる「天の岩戸開き神事」が本邦初齋行された。弟スサノオの度重なる乱暴なる舞により岩戸に隠れられた太陽神アマテラスが、再びこの世界に戻られるという神代の物語が忠実に再現された。

主祭神の天兒屋根命を演じるのは、この神事を取りまとめる中東宮司。そしてアマテラスを演じるのは日本を代表する画家の一人であり、多分野で非凡な才能を発揮するはせくらみゆきさん。かがり火、和太鼓、舞、雅楽のしらが織りなすなかで肅々と神代の物語が再現され、神々の楽

しそうな笑いとともに天の岩戸が開かれ、アマテラスが登場すると境内のあちこちから大きな歓声が上がった。80名の巫女とともに夜明けを告げる言祝ぎのうた「あけのうた」が披露される様は、まさに圧巻。ここでもまた、参詣者はじめ「同による「アツハッハー」の笑い声が響き渡る。「無心に笑うと心の岩戸が開かれ、神気が蘇り、調和の心が目覚め、来福に繋がる」と中東宮司は語る。新たな黎明の時代へ向け、岩戸を開いていくという同社初の壮大な神事は、参詣者全員的心に深く刻まれたことだろう。



江戸の粋を  
品を  
感じる、豪華さと  
併せ持つ江戸熊手



- 1.2.3. 今年の干支の酉をモチーフにした熊手
4. 江戸熊手で重要な注連縄を取り付ける作業
5. 色使いを抑えた金色と黄色の熊手。風水的にも良いとされる
6. 扇を広げたように小判山を配置したことで、豪華さが際立った熊手。デザインしたのは入社5年目の佐藤彰彦（さとうあきひろ）さん
7. 代表取締役社長の片山裕彦さん。妻の敏子さんと7人の若手職人で会社を切り盛りする

株式会社イサオ商会  
江戸熊手職人 中村屋  
〒176-0012  
東京都練馬区豊玉北2-14-8  
TEL.03-6915-8044  
<http://kumade-nakamuraya.com/>

毎年11月の酉の日に商売繁盛などを願う人たちが、神社の境内の露店で買求める熊手。中でも「江戸熊手」と呼ばれるものは、注連縄と小判山を使ったデザインが特徴で、中村屋の創業者で先代代表の中村勇雄さんが考案。中村屋の作り出す熊手は、「江戸の粋」という言葉がよく似合う。中村屋は1955（昭和30）年に先代が創業。現在は次女・敏子さんの婿である片山裕彦さんが引き継いでいる。製造縮小傾向にある熊手だが、その中で中村屋は、さまざまな企業努力により成長を続ける。「これまでの熊手の概念を覆し、オリジナルなものを目指しています」と片山さん。材料を仕入れるため中国などにも出向く。注連縄は新潟県魚沼郡の農協に発注しており、「材料探しが一番大変」と片山さんは苦笑する。デザインを担当する敏子さんは中村屋の熊手の人気の理由について「イメージするデザインの飾りが無い時に、どうやってそれに近づけるか考えます。高価な材料を使ったり、飾りを全部手作りにすると熊手の値段が上がるので、いかに既製品を使ってよく見せるかが大事」と語る。若い職人を育てることで、彼らの感性によって熊手も時代に合わせ進化している。





(右) 中将姫三尊種子刺繍曼茶羅絹本著色曼茶羅の全体

(左上) 信者の髪で刺繍したものと伝えられる梵字

(左下) 国・県指定の重要文化財などが納められている月山寺美術館



天台宗 耀光山 月山寺

〒309-1451 茨城県桜川市西小埜1677  
TEL : 0296-75-2251  
<http://www.006.upp.so-net.ne.jp/youkouzan/>



# 中将姫三尊種子刺繍曼茶羅 絹本著色曼茶羅

「伝説」と共に後世に伝えたい茨城県指定重要文化財

大きく描かれた3つの梵字。信者の髪で刺繍したものと伝えられるが、素材は不明。上の梵字は「キリク」で、阿弥陀如来を表し、右の「サ」は観音菩薩を、左の「サク」は勢至菩薩を表現している。上部には蓮華唐草模様の天蓋、下部には三足卓に載せた蓮の花が生けられた花瓶と三足香炉、三足卓が配置されている。黒と金を基調にした曼茶羅は荘厳な雰囲気漂う。

室町時代前期の作品だが、藤原不比等の孫を父に持つ中将姫(747(天平19)年〜775(宝龜6)年)が制作したとの伝承もある。中将姫は奈良・當麻寺にある「當麻曼茶羅」を織つたとされる人物で、彼女にまつわる伝説は平安時代から広まる。

この伝説とは、継母に雲雀山に捨てられた姫が17歳で當麻寺に入門。26歳の時に長谷観音のお告げで、蓮の茎を集めて糸を繰り、一夜で當間曼茶羅を織り上げ、29歳の時に一丈の光明と共に現れた阿弥陀如来と二十五菩薩に、生きたまま極楽浄土へ連れて行かれた話である。

天台宗の学問所として優れた人材を輩出してきた月山寺。この曼茶羅は境内の美術館に展示され、今なお多くの信者や参拝者に親しまれている。



戦国時代のロマンを感じさせる県指定文化財

# 太田道灌所用漆皮軍配



(上) 吉凶を占う図と不動明王を表す梵字「カーン」が書かれた軍配の表面

(中) 軍配の裏面

(下) 梨地の箱に「道灌」の文字が見られる



ひたちのくにそうしゃぐう  
常陸國總社宮

〒315-0016  
茨城県石岡市総社2-8-1  
TEL : 0299-22-2233  
www.sosyagu.jp/

江戸城を築城したことでも有名な室町後期の軍師・太田道灌（1432〜86年）の軍配が、常陸國總社宮に奉納されている。軍配の外枠は鉄製で、内側は膠で紙を何層にも重ねており、黒い漆を全体的に塗って着色。軍配の表面には吉凶を占う図と不動明王を表す梵字「カーン」が、裏面には梵字で観音菩薩の「サ」が赤い漆で書かれている。

この軍配は、太田道灌が奥州に下向した時に戦勝祈願で常陸國總社宮に立ち寄り、和歌と共に奉納されたと伝えられるが、「道灌が茨城の方に来た記録はないので、道灌の曾孫の資正が常陸国片野城主になった時に、この神社に奉納したのではないかと思えます」と櫛宜の石崎貴比古さん。

軍配を収納する梨地の箱には太田家の桔梗紋が描かれ、内側には、「偉大な祖先の軍配がここにあると聞いたのでお借りして、この箱をお礼に作らせてもらいました。先祖が使っていた軍配が自分の間近にあるのは非常に感慨深い」と書かれている。寛文年間（1661〜72年）に、道灌の子孫の浜松城主・資宗、資次親子が作らせたものである。この軍配、今もなお人気のある道灌が残した貴重なお宝である。

## 浅草神社『家庭の中の小さな神社 神棚づくり教室』

神棚づくりを通して日本文化に触れる  
小さな頃から神棚に手を合わせる大切さを伝えたい



(右) 組み立てている様子  
(左上) 第2回「家庭の中の小さな神社 神棚づくり教室」の説明の様子  
(左下) 左・浅草神社の矢野禰宜、右・株式会社クボデラの窪寺社長

「楽しかった」と  
目を輝かせた子どもたち

三社様として親しまれている東京都浅草神社。この神社の社務所内の一室で、小学生を対象にした第2回「家庭の中の小さな神社 神棚づくり教室」が昨年(2016年)12月10日に行われ、小学生37名、保護者30名が参加した。

教室で使用された神棚キットは、あらかじめカットされた木材が用意され、木工用接着剤を使って簡単に組み立てられるようになっていた。最初は子どもたちだけで説明を聞きながら組み立てて行き、後半は保護者も加わり、家族と一緒に試行錯誤しながら神棚づくりに真剣に取り組んでいた。参加者に話を聞いたところ、祖父が神棚づくりへの参加を勧めてくれたという矢野颯士くん(小学3年生)は「全部一人で作れたので楽しかった。また参加したい」と目を輝かせ、たびたび浅草神社で開かれるイベントに参加している筑井優くん(小学3年)も「すごく楽しかった。自分の机に飾りたい」と、神様に勉強している姿を見てもらうようだ。完成した神棚を嬉しそうに抱えて帰る子どもたちの姿が印象的だった。

感謝の気持ちと  
物を大切にすることを養う

浅草神社では日本の文化、伝統、風習を伝えるコミュニケーションの場を提

供したいという考えのもと、稲刈りや餅つきなどの日本の伝統文化を子どもたちに伝えるためにさまざまなイベントを開催している。本教室は、東京都神社庁主催により「三ヶ年神宮大麻都市頒布向上計画」の事業の一つとして開催。2016(平成28)年が3ヶ年計画の最終年。普段の生活の中に神社を設けてもらおうとの意図で企画された。第1回目は昨年8月に文京区の根津神社で行われた。

神棚づくりを通じて、神棚に手を合わせ感謝の気持ちが芽生え、モノづくりの面白さやモノを大切にすることも生まれる。「スギの間伐材を使うことで自然環境のことを考えてもらうきっかけになるほか、木に触れることでその温もりも感じてもらいたい」と神棚キットの開発者である株式会社クボデラの窪寺伸浩社長は語る。浅草神社の矢野幸士禰宜も「神棚づくり教室が、他の神社にも広まって行ってほしい」と期待する。

- 開催概要：小学1年生から6年生の児童と参加児童の保護者の方を対象
- 参加費：1000円(御神札代として)
- 開催場所：浅草神社  
〒111-0032  
東京都台東区浅草2-3-1  
TEL 03-3844-1575  
<http://www.asakusanja.jp/>
- 神棚づくり教室に関するお問い合わせ先  
クボデラ株式会社  
〒165-0025  
東京都中野区沿袋4-27-15  
TEL 03-3306-1153  
<http://www.kubodera.jp/>





イラストレーター・文筆家

# 田中 ひろみ

大阪府出身。女子の仏教サークル「丸の内はんじゃ会」代表。看護師として大学病院に勤務した後、絵の学校を卒業し、小説家のアシスタントを経て、イラストレーターに転身。文筆家としても、エッセイや実用書、恋愛、歴史、史跡めぐりなどさまざまな分野の本を出版している。よみうりカルチャー、中日文化センターの講師を務めるほか、2010（平成22）年からは奈良市観光大使としても活躍中。

<http://usagitv.com/>

## 仏像なぞり描きが 心やすらぐと大ヒット

『心やすらぐ仏像なぞり描き』『心やすらぐ国宝仏像なぞり描き』（池田書店）は、合わせて約15万部を発行した人気の書だ。この本の著者が、女流仏像イラストレーターとしても活躍中の田中ひろみさん。人気の理由を自らこう語った。「写仏は、仏画をなぞって心を整える修行です。仏像の絵の上に半紙を置き写す場合もありますが、私の本では薄い線をなぞっていくなぞり描きにしました。絵の雰囲気が優しく、かわいらしい感じが女性に受けたのかなと思います」

田中さんは異色の経歴の持ち主である。子どもの頃からイラストレーターを夢見ていたが、両親に「絵では生活できない。手に職をつけなさい」「看護師になってお金を貯めたら好きなことをしていい」と言われ、看護師になって大学病院で働いた後、病院を辞め、セツ・モードセミナーで絵を学んだ。そして、持ち前のガッツと行動力で、数えきれないほど出版社を訪問してはイラストを持ち込み、念願だったイラストレーターになる夢を実現させた。

田中さんが仏像に興味を持ったのは大人になってから。京都の三十三間堂を訪れた時、1,001体の千手観音に魅了されたのがきっかけだったと話す。「恋に落ちるのに理由がないように、仏像に恋をするのに理由はありません」と、仏像との“出会い”を恋に例えてくれた。それ以来、全国の寺をめぐり、仏像を描くようになったという。

今年1月にはなぞり描きシリーズ第3弾『心やすらぐご利益別仏像なぞり描き』を出版。このシリーズは、田中さんの独特の視点で仏像の特徴を説明しているのが、分かりやすく面白い。他にも『好きです、近江の仏像』（淡交社）など仏像に関する本を多数出しており、仏像がグッと身近に感じられる。「みなさん、奈良や京都にしかない仏像はないと思っているようですが、お寺のあるところに仏像はありますから、もっと身近なお寺に行ってもいいのかなという気がします」と田中さん。これらの本をきっかけに写仏や仏像に興味を持ったという人も多く、田中さんの仏像愛が本を通じてひろがりつつある。

1月に発行された  
『心やすらぐご利益別 仏像なぞり描き』  
（池田書店）



田中さんがこれまで出してきた著書



作画はパソコンを使って仕上げる







# 風まかせ ⑬

野田博明



## 桃ちゃん!

## 「話せばわかる」

松田翔太や有村架純が桃ちゃんやかぐやちゃんを演じる携帯電話会社のCMが面白い。大人たちには懐かしいお伽噺の主人公たちが交わす他愛ないやりとりがなんとも滑稽で微笑ましい。そのCM、もちろん子供たちにも大人気なのだが、NHKは今年、この主人公たちの定番の昔話をEテレで放映するという。

でもしてみようと思う。桃太郎はオラが村のヒーローだと唱える場所が全国にいくつもある。そのなかでつとに有名な処が大昔、吉備の国と呼ばれた岡山県である。きび団子といえは誰もが岡山のお土産を思い浮かべる。桃の収穫量だって日本一と、それは思い込みで実際は6位なのだそうだが、ずっと時代はさかのぼって恐縮だが、弥生時代には日本一であった。吉備国の遺跡から国内で最多の9606個ものコダイモモの種が出土しているのだから。そんなこんなでJRの岡山駅前広場にはりっぴな桃太郎の銅像が立っている。

その桃太郎の伝説を色濃く残すのが吉備津神社と吉備津彦神社である。岡山市の西端に「吉備の中山」という小高い山がある。その西麓に吉備津神社、東麓に吉備津彦神社がわずかにキメートルほどの近さで鎮座している。両社の創建時期は不詳であるが、式内社である備中国一之宮の吉備津神社はそもそも吉備国の総鎮守であった古社である。一方、吉備津彦神社は吉備国が備前、備中、備後に分割された際に備前国一之宮とされるが、平安時代には備前第一の大社であるとの記録もあり、両社ともに古より民の崇敬を集めていたことは確かである。

両社のご祭神・大吉備津彦命オホキビツヒコノミコト(旧名は五十狹芹彦命)は第7代孝靈天皇の皇子で、崇神天皇の御代に地方平定を果たした四道將軍の一人である。この命こそが桃太郎というのである。その時の吉備国の王は百濟から飛行してきた温羅という王子であった。吉備冠者と呼ばれた温羅と五十狹芹彦命の戦いが、「備中吉備津宮縁起」や「吉備津彦神社縁起」に詳しく語られており、それが桃太郎伝説の下敷きになっているというわけである。身の丈2メートルを超える温羅は、真つ赤な鬚髪は蓬々とし両眼は虎狼の如く、まさに鬼神の相であった。当時は吉備の穴海に浮かぶ島であった鬼城山キジマツに築いた鬼ノ城に籠り、西国から都へ向かう年貢船や往来する婦女子を襲うなど暴虐の限りを

尽くし民から恐れられていた。そこで、武勇の誉れ高い五十狹芹彦命が遣わされ、吉備の中山に陣を構え熾烈な戦いを挑んだ。温羅は雉や鯉に変化し、命も負けじと鷹や鵝に化け、大空を滑空、水中で格闘するなど妖怪大戦争も顔負けの死闘を演じる。その結果、ついに温羅は敗れ、吉備の冠者の尊称を命に献じ、命は「吉備津彦命」と改名した。ところが、討ち取られた温羅の首は往生せずに髑髏となっても何年間も吠え続ける。陣所の吉備津宮(現在の吉備津神社)の御釜殿の地下深くに埋めてもなお鳴りやまぬ。そのうち温羅が命の夢枕に立ち、「妻の阿曾媛に御饌を炊かせよ。さすれば悪行の償いに釜を喰らせ世の吉凶を占おう」と告げる。それに従うやようやく唸り声は止んだ





- 1 岡山駅東口に立つ桃太郎像（女木島を望む）
- 2 吉備の中山、左が龍王山、右が茶臼山
- 3 吉備津神社・比翼入母屋造り本殿
- 4 吉備津彦神社 手前から祭文殿・渡殿・本殿
- 5 敷石と鬼の城西門を望む
- 6 犬養毅銅像
- 7 大吉備津彦命の墓
- 8 山腹の平坦地に波津登玖神社（現・八徳寺）・右斜め上が御陵

野田博明（のだ ひろあき）  
 昭和26年4月生まれの65歳。昭和50年3月、東京大学卒業と同時に日本興業銀行入行。広報部長・管理部長などを経て、みずほホールディングス監査役などを歴任。平成23年に退任。一般社団法人 全日本社寺観光連盟 理事。趣味は神社仏閣巡りを兼ねた旅とグルメ。日本書紀など古代史が大好き。



鬼の城にて

という。これが鳴釜神事の起りである。縁起は綴る。この伝誦は室町時代の「備中国吉備津宮勸進帳」にも詳しく記され、当時、温羅伝説が巷間に知れ渡っていたことがわかる。そして、御釜殿では今日も阿曾女と呼ばれる巫女が御饌の世話をし続けており、他にも当社が鬼みそぎや花祭、おなご祭といった温羅にまつわる神事に覆いつくされているのも不思議である。

そうした奇譚がお伽噺となるのだが、桃太郎はもちろん吉備津彦命。鬼は温羅、従者のイヌが犬飼武として伝誦のなかで活き活きと息づいている。しかも、その登場人物は今も神として祀られ、多くの人々の尊崇を集めている。吉備津神社の本殿内の外陣の四隅に各々御崎神社が鎮座する。その一つが丑寅

の方位に位置する良御崎神社で、祭神は温羅とその弟・王丹だという。神となった桃太郎を祀る本殿の内に、成敗した鬼とその一党が祀られているのは異様である。一方で、東南隅の巽御崎神社の祭神は知恵袋のサルこと楽森彦命と勇者のキジ・留玉臣である。それは真横から温羅を監視しているのだろうか、なぜこうした様式となったのか縁起に謎解きは一切ない。

ところで、忠義者の犬飼武命はどこへいつてしまったのか本殿内に姿はない。同神社の名所である長い廻廊の突端に建つ南随神門に鎮座し、悪しき闖入者に今も警戒の目を光らせていたのである。そして、お伽噺と云いながら、犬飼武の末裔は実在し、久しく吉備の国で桃太郎を祀り、賀陽郡の大庄屋をつとめ、犬養部の宗家であるとの伝承を伝えていた。五・一五事件で青年将校の凶弾に倒れた犬養毅首相がその出自であった。日本の旗を背負った桃太郎の家来が昭和の世に総理大臣となり、「話せばわかる」とこの国に身命を奉げた。その犬養毅の銅像が南随神門近くの御手洗池の傍らに空高く聳え立ち、今も桃太郎の御霊を見守っている。

一方で、「吉備津彦神社縁起写」に伝わる桃太郎伝説はかなりの趣を異にしている。温羅は異邦人として朝廷から征伐されたが、吉備津彦に宝物の鉄製品を献上し臣従を誓うことで助命され、吉備国の支配を任されたのである。その故にか、吉備の中山の鬼門の地に犬養毅揮毫の注連柱を擁する良御崎神社が別途、手厚く祀られている。そして、温羅の和魂を祀った温羅神社が吉備津彦神社境内にも静かに鎮座している。こうした両社の伝誦や祀り方の相違に、わたしは塗り込められた歴史の正体を感じざるをえない。実のところの温羅は製鉄など先進技術を吉備国に伝え、民に慕われた支配者であったのではないか、征服者を正当化するために鬼が作り出された、温羅はその象徴であったと云ったほうが胸にストンと落ちる大人が読むべき桃太郎のお伽噺である。

吉備の中山の頂上には大吉備津彦命を祀る前方後円墳がある。その御陵の裾に温羅を祭神とする波津登玖神社（現在は八徳寺）がぼつんと建っている。その風情は吉備津彦を地中からお守りしているようでもあり、はたまた、古墳の主は吉備の王であった私なのだ。と崖下から吠えているようでもある。平安末期、今様歌謡を好んだ後白河法皇により撰された「梁塵秘抄」に、「一品聖靈吉備津宮……民御崎は恐るしや」という当時の流行歌が収録されている。怨霊とは冤罪によつて非業の最後をとげた魂が成仏できずに祟りをなすというものである。この歌は中世の庶民にも温羅が吉備の英雄であった、文明を開化させた王であったと語り継がれていたことの証でもある。

過去のNHK大河「平清盛」で後白河法皇の若き時代を演じたのが松田翔太である。今様の携帯電話CMで桃太郎を演じるイケメン俳優は良御崎との宿縁を知つてか知らずか、これはこれで呆けたこの時世には似合いのお伽噺ではある。



長野県

戸隠神社 宿坊 旧延命院  
お宿諏訪



写真右:宿坊内にある戸隠神社の分霊を祀った神殿でご祈祷が受けられる

写真上:和の空間の客室。全部で6部屋ある

写真下:聚長自ら育て、打った、蕎麦



お宿諏訪を運営する諏訪雅彦聚長



自家製そばを振るまい、食への感謝、自然への畏敬を伝える

天照大神が隠れた天岩戸が九州から飛んで来てできたと言われる戸隠山。険しい山容は、比叡山、高野山と並ぶ修験道の霊場として称されている。その麓に戸隠神社がある。神仏混淆時代には三千坊といわれた宿坊も、今では限られた37軒が戸隠講（戸隠神社を崇敬する団体）の講員や観光客を迎え入れている。

全国的にも神社の宿坊は数少ないようだが、戸隠神社では、神仏分離となった明治の頃から宿坊の責任者は神職でなければならず、御師として講員と神社の仲介役である聚長を任命され、世襲が義務づけられている。約20年前、先代を病気で亡く

し、20歳代前半で宿坊を引き継いだ聚長の諏訪雅彦さん。「今振り返ると宿坊の仕事について常に原点は何かを模索しながら奔走してきたことが、私どもが守ってきた宿坊の原点だと思います」と、これまでを振り返る。

平安の時代から続く旧延命院お宿諏訪。参詣者と神を繋げる役目を第1にしつつ、今では観光客も受け入れており、希望があればお札、おみくじを受け取ることができる。難解なおみくじの解説や御幣奉製授与も同宿坊ならではののもてなしだ。また宿坊内の神殿では祝詞写筆やご祈祷も受けられ、心の平安を取り戻すことができる。

食事は季節の地の物、信州産の食材にこだわるほか、戸隠では修験の時代から重要な食べ物として重んじられていた蕎麦は、自家製の在来種。聚長自ら育て、打った、薫り高い蕎麦がいただける。「神社を中心とした戸隠の地域性から、食への感謝、自然への畏敬は純粹なもので、大切にしている気持ちです。ご宿泊の方にもさりげなく感じて欲しい」とその思いを語る諏訪聚長。

今年からはスノーシューが楽しめるよう装備やガイドの準備も整えた。講員のお世話と拡大を第一としつつ、一般客には戸隠の魅力発信も忘れない。宿坊、聚長以外に他の神社の宮司を努めるなど多忙を極める諏訪聚長だが、「今後は戸隠の宿坊の原点である戸隠講の発展にも努めたい」と語ってくれた。

宿坊開設までの歩み
<b>創業</b> およそ平安時代から
<b>2002年頃</b> 客室、お風呂、ロビー、廊下などを徐々に改装
<b>2017年</b> 4月より客室の改装予定

主な体験内容
祝詞写筆、ご祈祷、御幣奉製授与、おみくじ解説

住所: 〒381-4100 長野県長野市戸隠2336番地  
TEL: 026-254-2018  
URL: <http://www.enmeiin-suwa.com>  
客室数: 6室  
収容人数: 20名  
主な施設: 神殿、貸切浴場(半露天風呂1、檜ジャグジー)、食事処、林美美子ミニギャラリー

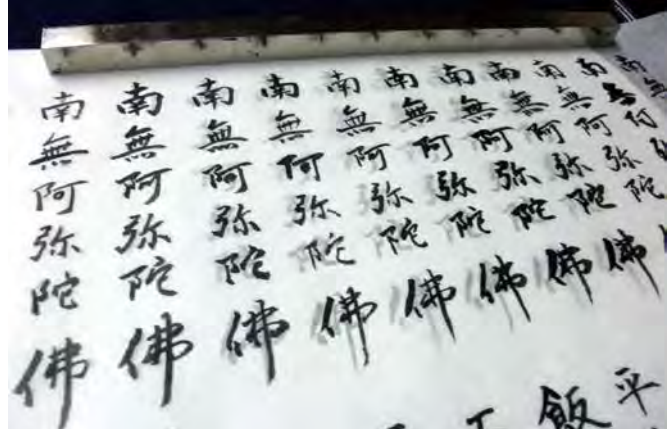


# 東京都心部に宿坊ができれば、大きな宣伝効果を生む

寺社旅研究家・宿坊研究会代表／堀内克彦



東京での宿泊体験イベントで行われた念仏行の様子



都内の寺院にて行われた仏教体験で参加者が書いた写経

## 大阪・下寺町に宿坊誕生 次は東京都心部に期待

いよいよ宿坊創生プロジェクトから、第一号宿坊「和空 下寺町」が大阪に誕生します。近隣のお寺にお力添えいただき、さまざまな体験が行える宿坊となる予定ですが、このニュースは政治、観光、建築など、多岐に渡る業界で話題になりました。

そこで私が次に注目しているのは、東京の寺社に新たな宿坊が開設されるかどうかです。現在、東京23区内には宿坊がほぼありません。東京都内なら青梅市・御岳山の武蔵御嶽神社に宿坊街がありますが、都心部からは距離があります。東京は国内外問わず多くの旅行者が訪れ、ホテル不足は大阪と並んで切迫しています。さらに東京の強みはテレビ局や新聞社など、さまざまなメディア企業が集まっている点です。私はいままで何百件もの取材を受けてきましたが、「東京近郊にある宿坊は？」と質問されたことは、一度や二度ではありません。

また、東京は京都と並んで、本山クラスのお寺が多く集まり、街中のあちらこちらに大きな神社も点在しています。もし東京都心部に宿坊が出来たとしたら、話題を独占できるでしょう。そついつ

た意味でも、どの宗派、どの寺社から宿坊が最初に開設されるかも重要となります。

禅宗の寺院による宿坊であれば坐禅、密教寺院の宿坊であれば護摩祈祷、日蓮宗の宿坊であれば唱題行や木剣加持、浄土宗や浄土真宗の寺院であればお念仏、神社であれば神前祈祷や祝詞などの体験がメディアを通じて紹介されることで人々の関心を引くでしょう。

## 東京ならメディアを通じて 人々の大きな関心を引く

東京の宿坊は一つのお寺のみならず、宗派全体の顔と成り得る側面も持ちます。その効果は他に先んじて生まれた宿坊ほど効果が際立ちます。私は以前、都内のある寺院と泊二日の仏教体験を企画したことがありましたが、その企画は単なる宿泊だけでなく、二日間にかけて修行が組まれていましたが、都内ではお寺に宿泊できること自体が珍しく、多くの反響がありました。

都心部の宿坊は、より多くの人を寺社の価値観に誘う重要な入り口です。どのような宿坊が新たに生まれるか、宿坊研究家としては興味が尽きない話題です。

## 宿坊新規開設をご検討の寺社様・運営に関する お悩みを抱える宿坊様へ

- サポート1** 宿坊開設の計画・立案から、各種手続きなどトータルでサポートします。
- サポート2** 営業開始後も継続的に集客プロモーションなど運営についてもサポートします。

### ■お問い合わせ先

株式会社和空プロジェクト 〒530-0044 大阪市北区東天満1-11-13 AXIS 南森町ビル9F  
TEL: 06-4801-8211 FAX: 06-4801-8221 <http://waqoo-pj.jp>

監修：一般社団法人 全国寺社観光協会

## 堀内克彦 プロフィール

寺社旅研究家・宿坊研究会代表。

「人生を変える寺社巡り」がテーマの寺社旅研究家。各地で寺社活性化・地域活性化の講演を実施し、寺院コンサルタントとしても活動中。著書に『宿坊に泊まる』（小学館文庫）、『ころろ美しく京のお寺で修行体験』（淡交社）、『恋に効く！ えんむすびお守りと名所』（山と溪谷社）など。





---

# 四季巡り 華景色

---

## 談山神社の白木蓮

たんざんじんじゃ  
はくもくれん

---



【談山神社について】奈良県桜井市多武峰319  
社号:談山神社  
創建年:701(大宝元)年

撮影 原田 寛 鎌倉市在住。古都グラファーとして、日本全国の古都や歴史の街並みを中心に撮影活動を行っている。日本写真家協会会員。

談山神社と向かい合った山の斜面に植えられた白木蓮は、大木で花付きが多く見事。同神社では、お花を紹介するとき、それにまつわる歴史や信仰と絡めるなどの工夫をしている。かつて桜の時期に、中世の頃多武峰(とうのみね)は桜の名所として知られ「吉野初瀬の花の中宿」とも呼ばれていたことを絡めて、吉野との桜と道の繋がりを解説して好評だったそうだ。





※イメージです。

# 宿坊創生プロジェクト第1弾 「和空 下寺町」 2017年4月 OPEN!!

住所:大阪市天王寺区下寺町2丁目5-12 <http://www.waqoo-shitadera.jp>

運営:株式会社 和空プロジェクト ※宿泊予約に関するお問い合わせは「和空下寺町 開業準備室」まで TEL:06-6533-9177

## バックナンバーのご案内

寺社の“いま”を伝える情報誌「寺社Now」は、全国の寺社に無償でお届けしています。

次号は  
5月発行の  
予定です。

### 監修

一般社団法人 全日本寺観光連盟

### 発行人

一般社団法人 全国寺観光協会

### 編集・制作協力

株式会社 関西びど

### 発行所

一般社団法人 全国寺観光協会

(事務局)

〒530-0044

大阪府大阪市北区東天満1丁目11番13号

AXIS 南森町ビル 9F

Tel:06-6360-9838 Fax:06-6360-9848

### 寺社Now

第1巻第13号 平成29年3月発行

本誌の表紙、記事、写真、イラストはすべて著作権法で保護されています。  
本誌の許諾なしに複写(コピー)したり、印刷物やインターネットのWEBサイト、メール等に転載したりすることは違法となります。



vol.9

- ◆巻頭特集  
寺社を中心とした街づくり  
近年活気づく門前町の活動
- ◆シリーズ: 地域と霊場会  
びわ湖百八霊場



vol.10

- ◆巻頭特集  
建築物の耐震について考える
- ◆インタビュー  
東北観光推進機構会長・  
東日本旅客鉄道取締役会長  
清野智



vol.11

- ◆巻頭特集  
登録有形文化財建造物制度
- ◆クローズアップ  
臨濟宗大本山天龍寺  
塔頭 永明院 住職  
國友憲昭



vol.12

- ◆巻頭特集  
文化財保護と観光支援における助  
成金と補助制度
- ◆クローズアップ  
法相宗大本山 薬師寺 管主  
村上太胤

バックナンバーはWEBでもご覧いただけます。 [jisy-now.com](http://jisy-now.com) または

寺社NOW

検索

情報掲載、本誌に関する  
お問合せは

一般社団法人 全国寺観光協会 本部事務局

〒530-0044 大阪市北区東天満 1-11-13 9F

TEL : 06-6360-9838 FAX : 06-6360-9848

e-mail : [info@jisy-kk.jp](mailto:info@jisy-kk.jp)

【お知らせ】前号 (vol.12) の「行政・観光レポート」でご紹介した、国府まちづくり協議会様より、原稿内容の訂正依頼がありましたのでお知らせします。  
本文内「堀祥岳 (ほりしょうがく) さんのお二人がガイドを担当してくださいました」→「堀祥岳 (ほりよしたけ) さん、安国寺住職の堀英信 (ほりひでのぶ) さんがガイドを担当してくださいました」  
右下写真説明「解説をする安国寺の副住職・堀祥岳さん」→「解説をする安国寺の住職・堀英信さん」

より良い誌面作りのため、寺社の皆様の貴重なご意見をお聞かせください！

# 寺社Now 誌面アンケート

「寺社Now」ではより良い誌面をつくるために誌面についてのアンケートを実施しております。下記のアンケートの□内には✓を、( )内にはご記入をいただき、下記まで本紙をファックスもしくは左のハガキ(切手不要)にてお送り願います。

## Q1. 所属

寺院  神社

## Q2. 今号で面白かった記事はどれですか(複数回答可) ※丸数字に○を記入

- ①巻頭特集:MICE誘致拡大に向けた社寺の取り組み ②特別対談企画:香川県知事 浜田恵造×四国八十八ヶ所霊場会会長・  
 医王山 多宝院 甲山寺住職 大林教善 ③トレンドNow :新しい禅の世界を体験できる壮大なアートパビリオン「洗庭」が誕生  
 ④行政・観光レポート:“動く漫画”で八溝山をPR 大田原市が全国初の取り組みを実施 ⑤インタビュー:河内國一之宮  
 枚岡神社宮司 中東弘 ⑥職人技:江戸熊手職人 中村屋 ⑦うちのお宝:月山寺 中将姫三尊種子刺繍曼荼羅/常陸國總社  
 宮 太田道灌所用漆皮軍配 ⑧集う、育む 体験レポート:浅草神社「家庭の中の小さな神社 神棚づくり教室」 ⑨活性人:  
 イラストレーター・文筆家 田中ひろみ ⑩野田博明 風まかせ:桃ちゃん!「話せばわかる」 ⑪宿坊運営ノート:戸隠神社  
 宿坊 旧延命院 お宿諏訪 ⑫宿坊研究会レポート:東京都心部に宿坊ができれば、大きな宣伝効果を生む ⑬四季巡り 華景  
 色:談山神社の白木蓮

## Q3. 以下の項目で、寺社の取り組みの事例として知りたいものはどれですか(複数回答可)

- 観光  外国人対応  宿坊新規開設・運営  寺社イベント  広報  地域振興  結婚式  後継者育成  土地活用  
 その他 (ご記入ください: )

## Q4. 今号の記事、広告を見て実際に問い合わせた、もしくは興味を持った内容があれば教えてください。

広告を見て問い合わせた、あるいは興味を持ったところの会社・団体名:

## Q5. 以下の項目で、知りたい企業サービスはどれですか(複数回答可) ※丸数字に○を記入

- ①ホームページ ②SNS運用代行 ③アプリ開発 ④告知ツール制作(掲示物・ダイレクトメール・冊子・チラシなど)  
 ⑤フリーWiFi ⑥自販機設置 ⑦喫煙所設置 ⑧清掃 ⑨老朽化・耐震対策 ⑩警備 ⑪保険 ⑫介護施設  
 ⑬託児所 ⑭土地活用 ⑮資産運用 ⑯税金対策  
 ⑰その他 (ご記入ください: )

## Q6. 寺社Nowへのご要望・ご感想など

(ご記入ください: )

寺社Nowのバックナンバーおよび、寺社Nowの継続購読をご希望の場合は、  
 下記の内容をご記入の上(□内✓をお願いします)、FAX送信してください。

<input type="checkbox"/> バックナンバー希望	ご希望のバックナンバーの号数に○をご記入ください ※複数可	<input type="checkbox"/> 継続購読希望									
( Vol. 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12)

寺社名	氏名
〒	
ご住所	
お電話番号	

< FAX >06-6360-9848

【個人情報の取り扱いについて】  
 ご記入いただいた個人情報は寺社Nowや同誌バックナンバーの発送および全国寺社観光協会からのご連絡以外には使用しません。





感動のそばに、いつも。



人をつなぐ、笑顔をつなぐ。  
JTBは地球を舞台に、  
あらゆる交流を創造し続けます。





# 挑戦の 数だけ、 保険が ある。

保険は、冒険から生まれた。  
大航海という挑戦を助けるために、  
勇気をつくるために、  
保険は生まれた。

さあ、挑戦しよう。  
人は何かを始めることで前へ進み、  
世界は新しく変わってゆく。  
不安も、きっとあるだろう。  
でもそれは、分かち合うことで軽くなる。

世の中には2種類の人がいる。  
挑戦する人、しない人。  
充実した人生を送るのは、  
どちらの人だろう。  
人から愛され尊敬されるのは、  
どちらの人だろう。  
世の中を変えていくのは、  
どちらの人だろう。

私たちはすべての挑戦を応援します。

To Be a Good Company  
東京海上日動



JOCゴールドパートナー(損害保険)